# 炭坑（1931）

KAMERADSCHAFT
LA’ TRAGEDIE DE LA MINE ［仏］
COMRADESHIP

**メディア** 映画
**ジャンル** ドラマ
**製作国** ドイツ
**色彩** B&W
**時間** 92分
**初公開日** 1932/09
**公開情報** 劇場公開

**【解説】**

独仏国境の炭坑で、爆発事故が起きた。ドイツとフランスの炭坑夫たちは国籍を越え、閉じ込められた仲間を救出するべく協力する。人間的な結びつきで救出にむかう彼らの姿を描いた、ヒューマン・ドラマ。

第１次世界大戦後の独仏国境に接した独ザール地方、敗戦間もないドイツの炭坑夫たちは、買い出しに出掛けたフランスの町でフランス人の冷たい態度にがっかりする。翌日フランスの炭坑で爆発事故が起こり、このニュースはドイツ側にも伝わった。ドイツの炭坑夫たちも同じ労働者同志の連帯感から救援隊を結成するが、フランス人に冷たくされた３人は参加しなかった。しかし、その３人も救出に向かうべく立ち上がり……。

さながらドキュメンタリー映画を観るような見事に再現されたセットと、劇音楽などの虚飾を廃し現実音による効果を有効に用いるなど、そのリアリズムに徹した演出によりヒューマニズムがいっそう浮き立って見える。第１次大戦で受けた心の傷のエピソードや、来るべき第２次大戦へ警鐘を鳴らすシーンを交え、同監督の「西部戦線一九一八年」にみられる反戦の意識を伝えている。オリジナルは９３分、日本での公開は検閲削除を含め８４分。アメリカのナショナル・ボート・オブ・レヴューのベストテンに選ばれた。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | ゲオルク・ヴィルヘルム・パプスト | Georg Wilhelm Pabst |
| **製作** | シーモア・ネベンザル | Seymour Nebenzal |
| **脚本** | カール・オッテン | Karl Otten |
| | ペーター・マルティン・ランペル | Peter Martin Lampel |
| | ラディスラウス・ヴァホダ | Ladislaus Vajda |
| **撮影** | フリッツ・アルノ・ヴァグナー | Fritz Arno Wagner |
| | ロベルト・バベルスケ | Robert Baberske |
| **出演** | フリッツ・カンパース | Fritz Kampers |
| | アレクサンダー・グラナック | Alexander Granach |
| | エルンスト・ブッシュ | Ernst Busch |
| | グスタフ・ピッティア | Gustav Puttjer |
| | アンドレ・デュクレ | Andree Ducret |
| | ダニエル・マンダイユ | Daniel Mendaille |
| | ジョルジュ・シャルリア | Georges Charlia |
| | ピエール・ルイ | Pierre-Louis |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.

アレックス・ベルナール　　Alex Bernard

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.